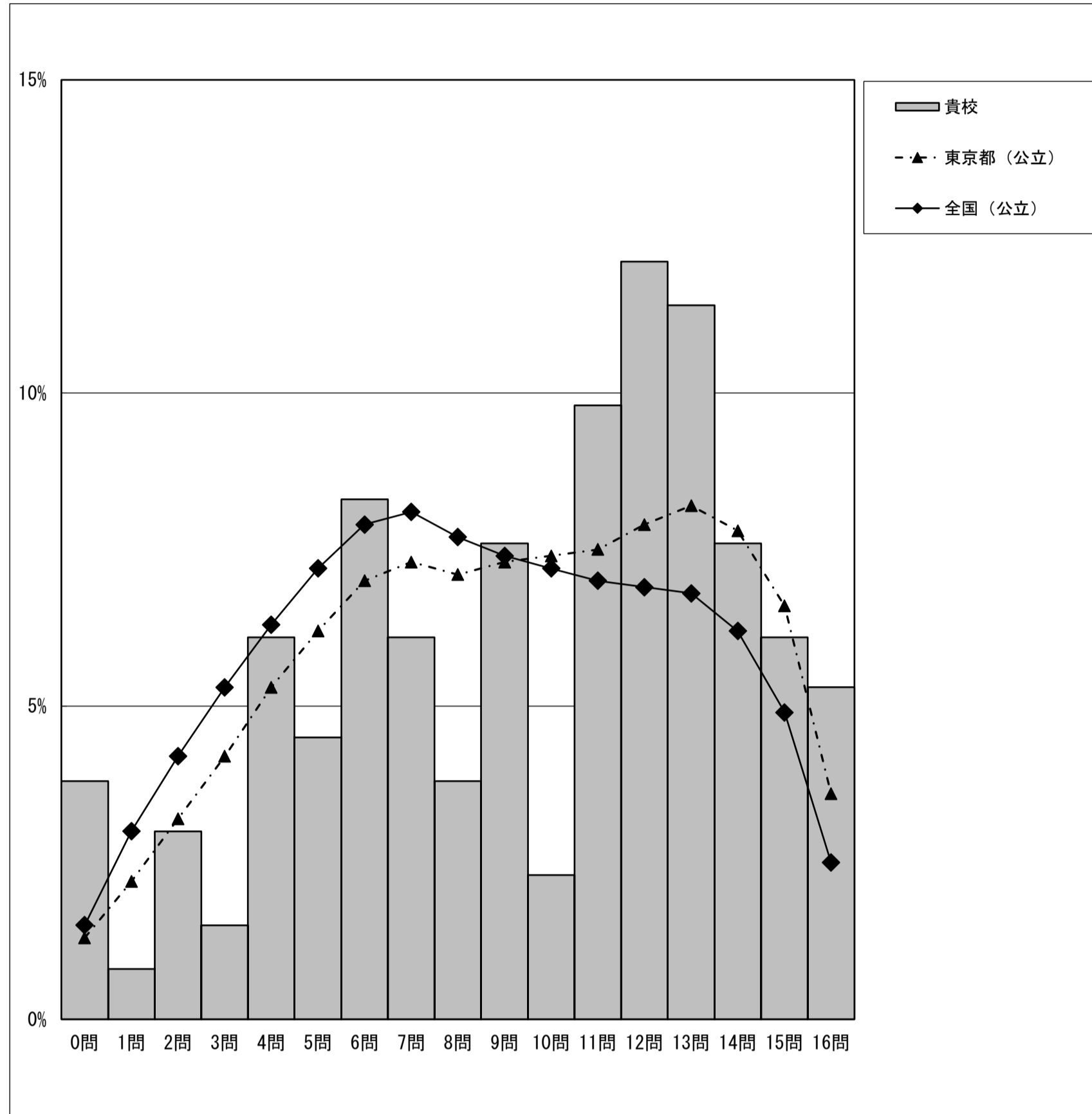


・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。  
 ※ただし、4月18日に調査を実施していない学校については、4月19日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
練馬区立田柄中学校	132	9.6 / 16	60	11.0	4.3
東京都(公立)	70,949	9.1 / 16	57	9.0	4.2
全国(公立)	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数集計値				
正答数	生徒数		割合(%)	
	貴校	貴校	東京都(公立)	全国(公立)
16問	7	5.3	3.6	2.5
15問	8	6.1	6.6	4.9
14問	10	7.6	7.8	6.2
△ 13問	15	11.4	8.2	6.8
12問	16	12.1	7.9	6.9
◇ 11問	13	9.8	7.5	7.0
10問	3	2.3	7.4	7.2
9問	10	7.6	7.3	7.4
8問	5	3.8	7.1	7.7
7問	8	6.1	7.3	8.1
▽ 6問	11	8.3	7.0	7.9
5問	6	4.5	6.2	7.2
4問	8	6.1	5.3	6.3
3問	2	1.5	4.2	5.3
2問	4	3.0	3.2	4.2
1問	1	0.8	2.2	3.0
0問	5	3.8	1.3	1.5

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	東京都(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問	12.0問
◇ 第2四分位	11.0問	9.0問	8.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問	5.0問

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

※ただし、4月18日に調査を実施していない学校については、4月19日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

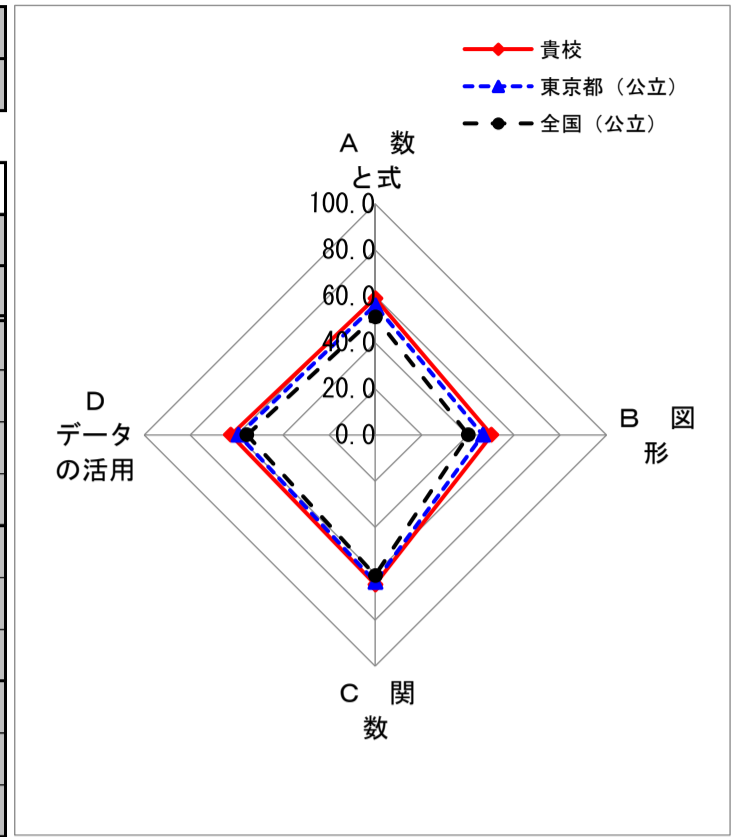
集計結果

対象生徒数		練馬区立田柄中学校	東京都（公立）	全国（公立）
		132	70,949	875,952

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			貴校	東京都（公立）	全国（公立）
全体			60	57	52.5
学習指導要領の領域	A 数と式	5	59.2	56.2	51.1
	B 図形	3	50.3	46.5	40.3
	C 関数	4	64.6	63.5	60.7
	D データの活用	4	62.5	59.1	55.5
評価の観点	知識・技能	11	70.0	67.3	63.1
	思考・判断・表現	5	37.1	34.2	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	64.7	62.4	58.5
	短答式	6	74.4	71.3	67.0
	記述式	5	37.1	34.2	29.3

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式			正答率（%）			無解答率（%）		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用				選択式	短答式	記述式	貴校	東京都（公立）	全国（公立）	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	2(1) 7(4)				○			○			50.8	43.4	34.8	11.4	11.9	14.3
2	等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	2(1) 7(2)				○			○			62.1	57.8	52.5	10.6	9.1	9.7
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる		1(1) 7(4)			○			○			72.7	72.8	68.3	1.5	0.4	0.3
4	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○			72.7	68.3	65.3	1.5	0.8	0.7
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる				2(2) 7(4)	○			○			75.8	77.1	73.1	3.8	3.3	4.2
6(1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	1(1) 7(4)				○			○			88.6	92.1	90.2	4.5	2.3	2.5
6(2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) 7(4)				○			○			47.7	41.7	35.9	20.5	19.1	23.5
6(3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2(1) 7(4)				○			○			47.0	46.2	41.8	27.3	26.4	29.6
7(1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる				4(6) 7(7)	○			○			87.9	78.3	74.3	4.5	5.2	5.8
7(2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(1) 7(7)	○			○			27.3	28.8	25.9	31.1	26.3	29.4
7(3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる				2(1) 7(7)	○			○			59.1	52.2	48.5	2.3	1.1	0.9
8(1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2(1) 7(7)	○			○			84.1	85.7	83.4	2.3	1.0	0.8
8(2)	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				2(1) 7(4)	○			○			20.5	20.5	17.1	16.7	15.2	16.4
8(3)	結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2(1) 7(7)	○			○			81.1	79.4	76.9	5.3	4.1	3.8
9(1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる				2(2) 7(4)	○			○			43.2	33.9	25.8	31.8	27.7	33.6

9 (2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	2(2)	7(イ)	1(ア)		○			○				34.8	32.9	26.7	1.5	4.7	4.5
-------	--	--	------	------	------	--	---	--	--	---	--	--	--	------	------	------	-----	-----	-----